

妊娠末期における母牛の栄養状態が出生後の黒毛和種産子の 末梢血白血球ポピュレーションに及ぼす影響

田波絵里香¹⁾ 大塚浩通^{2)†} 向井真知子¹⁾ 小比類巻正幸¹⁾
安藤貴朗²⁾ 小形芳美³⁾ 川村清市²⁾

1) 青森県 開業 (小比類巻家畜診療サービス：〒039h2683 上北郡東北町大平63h3)

2) 北里大学獣医学部 (〒034h8628 十和田市東二十三番町35h1)

3) 山形県農業共済組合連合会 (〒990h2171 山形市大字七浦字北川原286h1)

(2008年2月25日受付・2008年12月12日受理)

要 約

妊娠末期の母牛の栄養状態が黒毛和種産子の出生後の免疫状態に及ぼす影響を調べるため、妊娠末期において異なる飼養設計にて飼育した母牛の産子を対象に出生後の末梢血白血球ポピュレーションを観察した。供試牛は一牧場で飼育されていた母牛とその産子33組で、母牛の産歴とその給与飼料内容により、分娩前の飼料内容が不足した初産牛の産子(初産不足群; N = 5)と経産牛の産子(経産不足群; N = 8)、充足した初産牛の産子(初産充足群; N = 7)と経産牛の産子(経産充足群; N = 13)の4群とした。経産不足群の産子におけるCD 4⁺CD 45R⁺T細胞数、CD 8⁺CD 45R⁺T細胞数およびB⁺細胞数は経産充足群の産子に比べ低値で推移した。このことから、経産牛の黒毛和種産子における出生後の免疫状態は、妊娠末期における母牛の飼料設計の充足状況に影響を受ける可能性がある。

——キーワード：子牛，飼料内容，黒毛和種，妊娠末期，末梢血白血球。

----- 日獣会誌 62, 623～629 (2009)

† 連絡責任者：大塚浩通 (北里大学獣医学部獣医学科大動物内科学研究室)

〒034-8628 十和田市東二十三番町35-1 ☎0176-23-4371 FAX 0176-23-8703

E-mail : otsuka@vmass.kitasato-u.ac.jp